

人命救助の功績

副賞／日本財団賞（賞金50万円）

- 海難・水難、交通事故、遭難等に際し、身命の危険を冒して救助・救援に尽くされた功績
- 犯罪等の発生に際し、身命の危険を冒してその解決に協力された功績
- 災害・事故・犯罪の発生を未然に防いだ功績



松内 卓司

30



大森 健人

30



山口 洸平

30



川口 太郎

32



秦 康平

32



河村 誠

32



上園 広宣

32



道本 正行

34



石田 敦士

36



山城 則幸

38



鈴木 正

40



井上 定義

42



佐藤 弘樹

44



マルティネス 裕幸

46



島津 篤

48



益原 三郎

48



大谷 照男

50



まつうち たくじ
松内 卓司
(52歳／香川県高松市)



おおもり けん と
大森 健人
(17歳／香川県高松市)



やまぐち こうへい
山口 洸平
(16歳／香川県高松市)

平成21年7月28日午後4時頃、高松市女木島海水浴場で、男性がおぼれているのを発見し、水深約3mの海底に沈んでいた男性を救助した。心肺停止状態だった男性に心臓マッサージを行うなどの救命措置を施し、男性は一命を取り留めた ●推薦者／社会貢献支援財団

松内 卓司

今回、由緒ある社会貢献者表彰の受賞の栄に浴し誠にありがとうございます。

このような身に余る賞をいただいたきっかけは、昨年7月28日午後4時頃のことです。自宅の海の家で仕事「人が溺れている」という高校生の大きな声に促され、ふと海に目をやると、40メートル位の沖合で男性が溺れているのも東の間、そのまま海底に沈んでいったので、浮輪をもって海中に飛び込み、男性を引き上げ地元消防分団で習った人工呼吸等の処置を施し、駐在さんが連絡を取ってくれていた救急船で男性を運び、高松港で待機中の救急車で病院へ搬送し、男性は一命を取り留めました。

その男性がモンゴル人の留学生と知ったのは後のこととあります。

その後一週間程してモンゴル人の彼と恩師が御礼の挨拶に来られました。

人間に国境はなく人としての命を救えた事は本当によかったと思っております。

ありがとうございました。

大森 健人

夏休みに入り、女木島海水浴場で友人と泳いでいると、近くで騒いでいる人たちがいました。気になって駆け付けてみると、男性が溺れているとのことでしたが、男性の姿は見えなくなっていました。

Takuji Matsuchi (Age 52, Takamatsu, Kagawa Prefecture)

Kento Ohmori (Age 17, Takamatsu, Kagawa Prefecture)

Kohei Yamaguchi (Age 16, Takamatsu, Kagawa Prefecture)

On July 28, 2009 at around 4 o'clock in the afternoon the recipients spotted a man drowning in the sea in water about three meters deep and rescued him. They immediately administered lifesaving procedures including cardiac massage to the man, whose heart was in cardiac arrest, and succeeded in saving his life.

Recommended by the Foundation for Encouragement of Social Contribution

「これはヤバイ！！助けなければ・・・」と思い、気がつけば体が勝手に動いていました。駆け付けた松内さんと、友人の山口君も海に飛び込んでいました。そして、水深3mの海底に沈んでいる男性を発見。無我夢中で3人で男性を引き上げました。無事男性を引き上げることはできたのですが、男性は心肺停止状態で、松内さんが心臓マッサージなどの救命措置を行っているのを見て、まだ安心できないと思いました。その後、病院へ搬送され、一命を取りとめたそうです。あの時は必至で、救助後もどうなるか心配でしたが、一命を取りとめたこと聞き安心しました。

山口 洸平

私は夏休みに友達と一緒に女木島へ海水浴に行っていました。天気も良く皆で楽しく遊んだ後、そろそろ帰ろうと着替えて片付けを済ませてほんやりと海を眺めていました。

すると、何か様子がおかしいと感じました。それは、どうも泳いでいる感じが無く、頭が浮いたり沈んだりしている人が目に入りました。よく見ると、確かさっきまで泳いでいた人だと気づき、とっさに溺れていると分かりました。周りを一瞬見渡すと、誰も気付いた様子が無く、もう、私が助けに行くしかないと思い、友達に「溺れとる」と叫びながら急いで着ていた服を脱ぎ捨てて下着のまま海に飛び込みました。その時、友人と男の方も来てくれましたが、助けなければいけないと無我夢中でした。

溺れている人を助ける事だけを思い、力一杯頑張りました。

今思うと、自分でもあの時は、あんなに力があつたのかとびっくりしています。

溺れている人を、無事に救助でき、皆で喜びました。

二度とあってはいけない事故なのですが、私は、ここで人間の命の尊さを学びました。と同時に結果として救助された人、救助した人、全員が無事で良かったのですが、もし一人で溺れている人を助けようとした時、自分も同じように溺れる危険性があると後で冷静に判断するとそう感じました。

何事にも代えられない一番尊いものは、人の命である事、私はこの夏、人として大切なことを学びました。



高松市女木島海水浴場・事故現場



松内 卓司氏





かわぐち たろう
川口 太郎
(41歳／福岡県粕屋郡)



はた こうへい
秦 康平
(30歳／福岡県福津市)



かわむら まこと
河村 誠
(40歳／愛知県北名古屋市長)



うえの ひろのぶ
上園 広宣
(36歳／福岡県福岡市早良区)

平成21年5月1日午後5時頃、博多市博多区の御笠川沿いの道路でボール遊びをしていた川に転落した男児を川口氏、秦氏が川に飛び込み確保し、河村氏、上園氏の協力により男児を護岸に引き上げ救助した。
●推薦者／社会貢献支援財団

川口 太郎

この出来事に遭遇したのは、会社に帰る夕方でした。

車で橋を渡り、左折すると主婦が携帯をかけながら騒いでいるのが目に入りました。まさか、と思しながら、車を降りて川を見てみると、子供が50cmほど沈んでいる現場に遭遇しました。

とっさに川に降りるところを探しましたが見当たらず、4~5mある崖を降りるしかないと思い、崖にぶらさがりすべるように落ちて川岸に着地しました。

ちょうど私が川岸に降りた時に、秦さんが走ってこられて、お互いに飛び込めるかを確認してすぐ飛び込みました。上園さんがネクタイを垂らしてくれたのですが、そのお陰で本当に助かりましたし、これで助かると思いました。そこに河村さんと上園さんが加わり、河村さんが半身、身を自分の方に投げ出し、手を伸ばしてくれたので、子供の手を渡し引き上げてもらいました。

子供はと聞くと、脊中を叩いたら水を吐いて呼吸していると聞き、生きていることをそこで確認できました。3日後ぐらいに子供とご家族が、無事退院して元気になったと報告に家まで来てくれた時は本当に良かったと思いました。

Taro Kawaguchi (Age 41/Fukuoka Prefecture)

Makoto Kawamura (Age 40/Fukuoka Prefecture)

Kohei Hata (Age 30/Fukuoka Prefecture)

Hironobu Uezono (Age 36/Fukuoka Prefecture)

On May 1, 2009 at about 5 o'clock in the evening a young boy who had been playing ball on the road by the Mikasa River fell into the river (about 1.5 meters deep). Mr. Kawaguchi and Mr. Hata jumped into the river, grabbed hold of the boy and raised him out of the water onto the embankment with the help of Mr. Kawamura and Mr. Uezono, saving the young boy's life.

Recommended by the Foundation for Encouragement of Social Contribution

秦 康平

「誰かー助けてー」という女性の声で私は子供が溺れている事を知りました。すぐに緊急事態だという事がわかりました。救助している時は無我夢中で何としても助けてやりたいという気持ちで必死に泳ぎました。一緒に救助を行った4人のチームワークも偶然現場に居合わせたにもかかわらず完璧だったと当時を振り返るとそう思います。そして何より救助した子供に意識があるとわかった時が一番うれしかったです。今後このような名誉にはしないように社会へ貢献したいと思います。

河村 誠

出張帰り、空港へ向かう途中、偶然車で橋を渡っていた時の事でした。川に何かが浮かんでいるのを発見しました。私は橋を渡り切る数秒と短い間に頭の中で、浮かんでいる物がゴミなのか？ バケツなのか？ それとも大きなボールなのか？と駆け巡りました。しかし、もしかしたら「子供」かな？と思った瞬間、車をすぐに乗り捨て渡って来た橋を全力で走り戻り、川に駆け寄りました。既に川に飛び込んだ人が子供を岸まで寄せていました。しかし、水深がとても深く足をかける所も無く、さらに岸に上げるのに高さがありました。飛び込んだ人も立ち泳ぎをしている状況であり子供は意識がなく浮いている状態でしたが、すぐに側にいた人に私のズボンのベルト部分を後ろからしっかり支えてもらい、精一杯手を伸ばし何とか子供の体の一部に手が掛り引き上げる事が出来ました。引き上げたあとも意識は無く、ぐったりとしたままで危険な状態でしたが、周りから「背中をたたけ」という声があり、一緒に救助した人が背中をたたくと意識が戻りました。無事、意識が戻った後、救急車で病院へ運ばれ「ホッ」としました。数週間後、電話があり「ありがとうございました」と本人から言われ、本当によかったと思いました。

上園 広宣

得意先回りを終え、会社へ帰るため御笠川沿いを車で走っていると、「子供が溺れている」と女性が大声で叫んでいました。急いで車を降り、川を見てみると、子供が川の中で沈みかけていました。道路から川岸まで3~4m位高さがあり、すぐに飛び降りることもできずにいました。

やっと川岸に降りるところを見つけて、全力で走っていくと、既に秦さんと川口さんが川に飛び込んでいました。2人は子供を抱きかかえていましたが、川が思ったよりも深く、川岸まであと少しの距離を近寄ることが出来ずにいました。このままでは全員が溺れてしまい危ないと思い、私が自分のネクタイを使って、2人と子どもを川岸まで引き寄せました。しかし護岸がとても高く、滑って、子供を私一人では引き上げられませんでした。そこに駆け付けた河村さんが、寝そべり身を前に乗り出し、私が落ちないように後からズボンのベルトを持って支えて、2人で子供をなんとか引き上げることができましたが、子供はぐったりとして意識がありませんでした。

子供を横にして私が背中を強くたたくと、水を吐き出し意識が戻りました。その後、子供を毛布でくるみ、救急隊の到着を待ちました。



事故現場

平成21年5月26日 西日本新聞





みちもと まさゆき
道本 正行 (62歳/兵庫県伊丹市)

平成21年8月28日午後3時30分頃、箕面市箕面公園の箕面川沿いにある売店付近で、男児が溺れていると知り、約8メートルもの高さの垂直に近い崖を降り、上着と靴を脱いで水中に入り男児を確保し、到着した救急隊に男児を引き渡し救助した。

●推薦者/全国消防長会 会長 新井 雄治

昨年8月28日午後3時頃、箕面国定公園の遊歩道で、釣鐘ヶ淵を見下ろしている3名の中年女性に、何事かと近づき、見ると服を着た小学校5年生ぐらいの児童が、浮き沈みしていた。

「溺れている、助けてあげて」

瞬間、私は走りだし、本能的に遊歩道から最短の距離で直行できる淵の直上を選び、柵を超え、川面に直降、軟着するための青木をめがけ、約8メートルを飛び降りた。

淵の上流ですぐに脱衣し、胸までの水中を、岩伝いに背後から近づき、左手でツタを掴み、両足はそれぞれ岩の出っ張りに置き、しがみつかれることを想定しながら、右手で児童の左手をつかみ引き寄せた。

同時に暴れられないよう、ガチッと体を密着させて、「もう大丈夫だよ」「安心だよ」と目を見て話しかけたが、無反応で意思が全く伝わらないことが分かった。

安心させ、浅い所にと考えたが、児童の動きが予想できないため、動かず、多数の応援を得た方がと判断して、遊歩道の人影に声をかけたが水音でかき消され、通じ難かった。

やきもきするうち、児童の引率者が上流に現われたので、公園の管理事務所にロープを持ってきてくれるようにと依頼した。

約10分して事務所員が来てくれたが、片手で児童を抱え、もう一方でロープを掴み、安全な場所に移動して、その上に崖上の遊歩道へ抱え上げるのは至難と判断して、市の救助隊への連絡を依頼した。

そうこうするうち、ふと児童を見ると唇が紫色になっているので、救助隊は未着だったが、児童を抱え、淵の上流と直上から垂らされたロープで水中を移動し、待ち受ける事務所員に児童を託した。

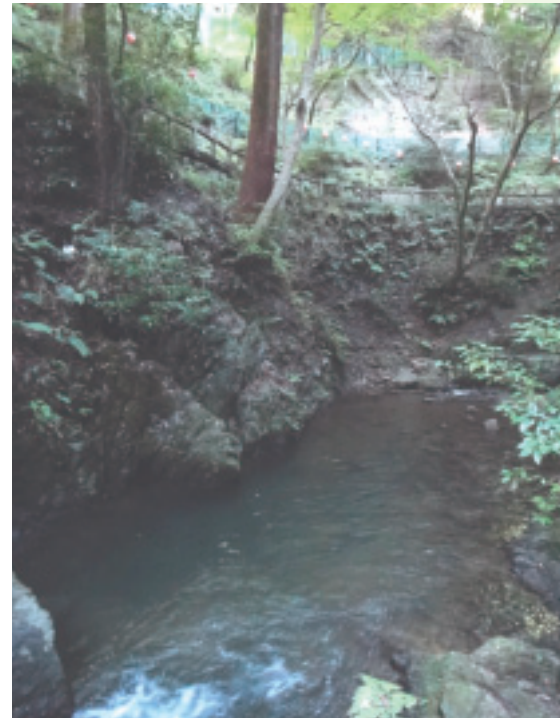
その後はすべてを救助・救急隊に任せ、箕面市消防署の事情聴取に応じた。

今も、箕面市消防局の組織的かつ敏速な救助行動に安堵したのを覚えている。

Masayuki Michimoto (Age 62/Itami, Hyogo Prefecture)

On August 28, 2009 at about 3:30 in the afternoon, near a kiosk along the Mino River in Mino Park, Mino City, Mr. Michimoto spied a boy in distress in the water and on the verge of drowning. He climbed down an almost vertical cliff of about eight meters to get close to the boy. After removing his jacket and shoes, Mr. Michimoto plunged into the water and brought the boy safely to shore where he handed him over to the rescue team that had arrived by then.

Recommended by Mr. Takeji Arai, Chairman, Fire Chief's Association of Japan



事故現場



消防署からの感謝状授与





いしだ あつし
石田 敦士 (37歳/静岡県静岡市葵区)

平成21年8月1日14時15分頃、静岡市駿河区用宗港東側突堤で家族と釣りをしていたところ、反対側の突堤で溺れている男性を発見し駆け付け着衣のまま海に飛び込み、水没していく男性を岸まで移動させ救出し、救急隊到着までのあいだ心肺蘇生法を施し救助した。

●推薦者/全国消防長会 会長 新井 雄治

当日、妻と2人で用宗港で釣りをしていた。すると対岸に泳いでいる人影を妻が発見した。初めはふざけているのかと思いに留めなかったが、「おじさん、これに掴まって!」という声が聞こえてきた。見ると、岸壁の上の女性が海に浮いている男性にロープを掴ませようとしている。男性はロープを掴めずに水飛沫を大きく上げ始めた。ただならぬ事態が起きていることによく気づいた。

対岸まで走り女性の元に着いた時、男性は既に顔を海面に伏せ立ったまま浮いていた。近くにいる釣り人に「救急車!!」と叫ぶと「今、呼んだ。」という返答があったので、すぐに海に飛び込んだ。男性の顔が水面から出るように後ろから抱え、スロープまで泳いだ、微かに感じる温もりに、まだ大丈夫、助かるという思いを強め、懸命に呼びかけながら泳いだ。何とかたどり着いたスロープは滑り、滑るたびに足の裏が切れ、男性を引き上げることができなかった。駆けつけた妻は妊婦であったため手助けができず。集まってきた人たちに助けを求めた。一人の男性が腰まで水に浸かって助けにきてくれた。2人で海から引き上げたが、既に心肺は停止していた。直ちに心肺蘇生術を行った。人工呼吸、心臓マッサージを3セット終えるくらいで息を吹き返した。同時に救急車が到着し、迅速に搬送されていった。

私は小学校で教職に就いているが、私たち教職員は毎年プール開き前に自校で救命講習を受講している。消防署やそのOBの方々、人の命の重みを肌で知る方々からの熱い指導が今回の私の救助活動に結びついたことは明白である。心から感謝している。

Atsushi Ishida (Age 37/ Aoi-ku, Shizuoka, Shizuoka Prefecture)

On August 1, 2009 at about 2:15 in the afternoon, while fishing with his family on the eastern jetty of Mochimune Harbor in Suruga-ku in Shizuoka City, Mr. Ishida spotted a man in the water in distress and on the verge of drowning near the pier on the opposite side of the jetty. Fully clothed, he jumped into the water and rescued the man who had submerged by then. After taking him safely to shore, Mr. Ishida administered CPR until a rescue team arrived.

Recommended by Mr. Takeji Arai, Chairman, Fire Chief's Association of Japan



事故現場



平成21年8月11日 静岡新聞





やまし のり ゆき
山城 則幸 (55歳/沖縄県糸満市)

平成21年9月13日午後6時10分頃、糸満漁港の岸壁に腰かけていた5歳の男児が真後ろに海に落ちたのを目撃し、着衣のまま海へ飛び込んだ。その際、足の裏に約10cmの切り傷を負いながら溺れている男児を抱きかかえて救助した。

●推薦者/全国消防長会 会長 新井 雄治

私は日頃から釣りが好きで、休日によく海に出かけます。その日も日曜日で、夕方釣り仲間と雑談をしている時でした。岸壁に腰掛けていた男の子が、海に転落するのを目撃し、とっさに走りだし、海に飛び込み溺れている男の子を必死で抱きかかえ、仲間達に引き上げてもらい、駆け付けた父母に抱かれ、泣きじゃくっている男の子を見て、大丈夫だとほっとしました。

無我夢中のことで、仲間や救急隊に言われるまで、自身の足の傷にも気がつかないほどでした。

救急車で病院に搬送してもらい、傷の手当を受け、男の子の方は傷もなく、異常がなければその日に家に帰れると聞き安心して、迎えに来てくれた家族と共に帰宅しました。

後日、父親や祖母がお礼に見え、男の子は元気に遊び回っていると感謝してくれ、本当に良かったと思いました。



救出現場の海

Noriyuki Yamashiro (Age 55/ Itoman, Okinawa)

On September 13, 2009 at about 6:10 in the afternoon, Mr. Yamashiro spotted a five-year old boy who had been sitting on the wharf of the Itoman fishing port tumble backwards into the water. Fully clothed, Mr. Yamashiro jumped into the water to save the boy. During the jump he sustained a cut of about 10cm to the back of his foot but was able to grasp hold of the young boy and guide him to safety.

Recommended by Mr. Takeji Arai, Chairman, Fire Chief's Association of Japan



事故現場





すずき ただし
鈴木 正 (41歳/福島県西白河郡)

平成21年5月10日午前6時50分頃、近所ですでに火の手が回り中に入れない住宅火災を発見し、2階のベランダで助けを求める一家4名をベランダ下に掛けた脚立に上り手を差し伸べて救出した。

●推薦者/全国消防長会 会長 新井 雄治

平成21年5月10日の朝のことです。いつものように仕事場に行き、職場でふと何気なく外を見ていると、隣の自動車修理工場の住宅から黒煙が出ているのに気が付き、おかしいなと思い行ってみると、その状況からすぐに火事だとわかり、消防署に通報をしました。

それから、現場に戻ってみると、住宅の1階部分から火が出ており、火は階段を上がっていくのが分かりました。朝早かったので家の中に人がいないか気になり、東側の庭に回ると、二階のベランダに若い夫婦と子供二人が助けを求めています。

住宅の一階からの救助は、火の手があがっていることから出来ないと思い、まだ火が回っていない二階へと、とっさに、修理工場の脇にあった脚立を持って駆けつけ、夫婦と子供を救出しました。

もう少し気付くのが遅れていたら、助けることが出来なかったと思います。

救助後は、消火を試みましたが、既に火の勢いが強く、近づくことが出来ませんでした。

息子さんご夫婦と子供さんが助かって、本当に良かったと思いました。



鈴木さんの作業所

Tadashi Suzuki (Age 41/Nakajima, Nishi Shirakawa, Fukushima Prefecture)

On May 10, 2009 at about 6:50 in the morning, Mr. Suzuki noticed that a nearby house was engulfed in flames and that four of the family members were on the second floor veranda and calling out for help. Realizing that it was impossible to enter the house, he placed a stepladder underneath the veranda, scaled it and guided the family to safety.

Recommended by Mr. Takeji Arai, Chairman, Fire Chief's Association of Japan



作業所前からみた火災現場



赤点線の位置に下の折りたたみ式の脚立(全伸梯で約3m)をかけたものの青点線の部分には下屋があった





いのうえ さだよし
井上 定義 (63歳/山口県岩国市)

平成22年2月24日午前7時30分頃、自宅近くの木造2階建住宅から煙が上がっているのに気づき現場に駆け付け、黒い煙が充満し炎が上がっている建物内に入り、老女を屋外へ救出し、再び建物内へ入り燃えている石油ストーブを家の外に引き出し、延焼中の台所に水をかけて消火した。

●推薦者/全国消防長会 会長 新井 雄治

平成22年2月24日午前7時30分頃、自宅近くでスクールガードをしていると、200m先の建物の玄関付近から白煙が出ているのが見えました。

火災かと思い、すぐに走って現場に駆けつけました。

玄関から中を覗くと、黒煙が充満していて、ガスのような臭いもしていました。家屋の中から女性(87歳)の声で「火がついた、火がついた」という声が聞こえてきました。

黒煙の下をくぐって中に入ると、女性が煙の中で、台所マットをもって座り込んでいました。

すぐに女性を屋外へ避難させ、通りがかりの協力者に任せました。そして自転車で通りかかった人から、消防に通報したとの知らせを受けました。私は、何とか消火できないかと思い再び建物内に入りました。煙の中をよく見ると、奥にドアを発見しました。

一旦外に出て建物の裏に回ると勝手がかりあり、そこから中に入ると前方2m位の所で石油ストーブが真っ赤に燃え上がっているのが見えました。女性の持っていた台所マットをストーブの上からかけて、外に放り出しました。そして台所の床が燃えていたので、流し台から釜で水をくんで消火をしました。

最後に、屋外のストーブも協力者と一緒に消火しました。

無我夢中で女性を助け消火しましたが、煙を吸い込んだせいか職場に行っても一日中喉が痛み、頭がクラクラし、火災の恐ろしさを実感しました。早い発見と通りがかりの協力で、大きな火災にならず安心しました。

後日、女性とその方の長男がお礼の挨拶に来られ、無事で良かったと心から思いました。



火災現場

Sadayoshi Inoue (Age 63/Iwakuni, Yamaguchi Prefecture)

On February 24, 2010 at about 7:30 in the morning, Mr. Inoue noticed smoke rising from a two-storey wooden dwelling near his own house. Running to the house that was engulfed in black smoke and in flames, he went inside and rescued an elderly woman from the house. Going inside once more, he dragged out a burning oil stove and proceeded to extinguish a fire that was still burning in the kitchen.

Recommended by Mr. Takeji Arai, Chairman, Fire Chief's Association of Japan



火災現場



スクールガイド中

平成21年3月20日 読売新聞



平成21年3月23日 日刊いわくに新聞





さとう ひろき
佐藤 弘樹 (25歳/東京都昭島市)

平成22年2月15日の夜、杉並区JR中央線高円寺駅で線路上に女性が転落したのを目撃し、線路に飛び降り電車が迫るなかで咄嗟に女性の体の位置をレールの間のくぼみに動かし、女性の上に電車を通過させ、女性を救助した。

●推薦者/財団法人 警察協会 会長 今泉 正隆

仕事帰りに友人と食事をし、自宅へ帰ろうと駅に向かいました。電車が来ていたので、階段から一番近い先頭の車両に急いで乗りました。窓際に立ちうたた寝していると、高円寺駅に到着したようでしたが、目的地ではなかったので降りずにいると、同じ電車に乗っていた女性がフラフラと降りて、そのまま反対側のホームへ転落してしまいました。

端だったこともあり、ホーム上には男性1名しかいませんでした。自分が乗っていた電車の乗客もざわざわし始めていましたが、同時にこの電車の発車ベルが鳴ってしまいました。

これはマズイと思い、電車から降り、緊急停止ボタンを探しましたが近くにはなかったので、近くにいた男性にお願いし、自分は線路へ降りました。

女性は最初意識がありませんでしたが、声を掛けていると右腕が動いたので、それを握り声をかけ続けました。頭を打っているので、動かしてはいけないと思い、しばらくそうしていると、後から電車が来てしまいました。

自分はとっさにホーム下の避難溝に飛び込み、その際、偶然女性を仰向けにすることができ、電車は女性の上をしばらく通過したのち停車しました。

その後、女性は意識を取り戻し、自ら電車の下から出ることができ、自分と一緒に駅員さんの誘導のもと救出されました。

後日、女性は軽い切り傷だけだったと聞き、本当に良かったと思いました。

Hiroki Sato (Age 25/Akishima, Tokyo)

On the evening of February 15, 2010, Mr. Sato witnessed a woman fall on to the railway tracks at Koenji Station of the JR Chuo Line in Suginami-ku. Jumping swiftly onto the tracks to assist her, he moved the woman safely to the hollow between the rails as the train approached. The train passed over the woman and stopped, at which time he rescued the woman.

Recommended by Mr. Masataka Imaizumi, Chairman, Japan Police Association



当時を語る佐藤さん

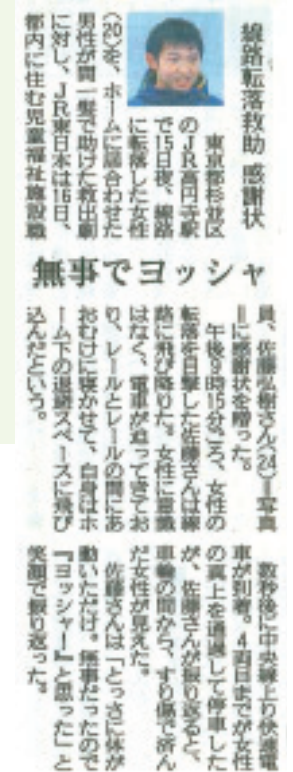
平成22年2月16日 読売新聞



平成22年2月17日 産経新聞



平成22年2月17日 毎日新聞





ひろゆき
マルティネス 裕幸

(19歳／神奈川県川崎市麻生区)

平成21年6月22日午後1時50分頃、京浜急行線の屏風浦駅のホーム上にいた女性が突然線路に飛び降り線路上に横たわったのを目撃し、電車が接近するなかで線路上に飛び降り、女性をホーム下のスペースに引き込んで、救助した。

●推薦者／財団法人 警察協会 会長 今泉 正隆

2009年6月22日、僕は父の家がある屏風ヶ浦へ遊びに行きました。その帰り道、駅のホームで電車を待っていました。その時ホームに立っていた女の人が線路に落ちました。とっさに「その人を助けなければならない」と思い、線路に飛び降りました。夢中でホームにある隙間に移動した瞬間、急行電車が通過し、女の人命は助かったものの、足首を切断してしまい、それを見て僕はとてもショックを受けました。数分後に救急車が来て女の方はホームに上げられ、意識は回復しましたが、その時に言ったひと言は、「死にたかった」でした。それを聞いた僕は、「助けたことが良かったのか、良くなかったのか」分からなくなりました。しかし現場にかけつけてくれた母が、「助けていけない命はない。良いことをしたんだよ」とほめてくれました。でもしばらくの間、僕が受けたショックはあまりにも大きすぎて、ゆっくり眠ることができず、学校へ行くことさえできませんでした。

しかし、しばらくたってから友達から電話があり、僕のことを心配してくれていたことが分かり、とても嬉しく思いました。そして次の日から学校へも行けるようになり、先生やまわりの友達にもほめられ、「助けて良かった」と心から思いました。

神奈川県警察部長から感謝状をもらったり新聞にも掲載されましたし、女の方は入院して治療を受けて、回復していると聞いて、とても嬉しく思っています。

今後も人のために出来ることがあれば、手伝いたいと思っています。

また、立派な大人になるために、毎日を大切に、目標に向かって勉強し、成長してゆきたいと思っています。

Hiroyuki Martinez (Age 19/Aso-ku, Kawasaki, Kanagawa Prefecture)

On June 22, 2009 at 1:48 in the afternoon Mr. Martinez witnessed a woman who had been standing on the platform of Byobuga-ura Station of the Keihin Express Line suddenly leap on to the tracks and lie down across the rails. As the train approached, Mr. Martinez jumped on to the tracks and dragged the woman to safety to the hollow space alongside the tracks underneath the platform.

Recommended by Mr. Masataka Imaizumi, Chairman, Japan Police Association



救出現場（上り線ホームから横浜方面）



救出現場（ホーム下のスペース）

平成21年7月14日 神奈川新聞



平成21年7月14日 産経新聞





しまづ あつし
島津 篤
(51歳／新潟県新潟市)



ます はら さぶろう
益原 三郎
(60歳／新潟県新潟市)

平成22年3月30日午後3時頃、新潟市中央区の銀行の駐車場で、島津氏が女性が車の中で男に金づちで殴られ、血だらけになっているのを目撃し、男から金づちを奪って女性を救出し、男が自分の車で逃走しようとしたところを益原氏が車の前に立ちはだかつて阻止し警察に通報、男の逮捕に協力した。

●推薦者／社会貢献支援財団

島津 篤

平成22年3月30日、PM2:40頃、私は月末の支払いのため第四銀行女池支店の駐車場に車を停めた。

月末のそれも閉店間近の銀行の駐車場には10台ほどの車が停まっていた。

ATMで振込を終え、知り合いに電話をしながら車に戻ろうとし、車のドアノブに手をかけたその時、“助けて下さい！”という叫び声。振り向くと顔中血だらけの女性が、隣の車の助手席のドアを開いて必死の形相で懇願しているではないか。

ただ事ではない！何が起きているんだ？奥を見ると男性の姿が見える。痴情の縄れ？ならばなにか言い訳をするはず…。

反応なし！

ならば「なにをしようんだ、おまえはっ！！」と威嚇してみた。すると犯人は車から降り、その隣に停めてあった自分の車に乗り込もうとするではないか。逃がしちゃいけない。女性の胸元に、犯行に使われたであろうハンマーが見えた。それを攫み私は犯人の車に近づく、ドアを閉めたら逃げられる。そう思い車のボディとドアの間に体を挟み、ハンマーで威嚇する。「110番してくれ！行員を呼んでくれ！救急車！」と叫ぶ。

銀行の利用客によって行員が来た。女性の手当をしている。しばらくしてサイレンの音が聞こえた。よかった、なんとか役目を果たせた。

ものすごい数の警官、そして野次馬の中、犯人は連行されて行った。

Atsushi Shimazu (Age 51/Niigata, Niigata Prefecture)

Saburo Masuhara (Age 60/Niigata, Niigata Prefecture)

On March 30, 2010 at about 3:00 in the afternoon, Mr. Shimazu witnessed a woman being beaten by a man with a hammer inside a car in the parking lot of a bank in Chuo-ku, Niigata City. After grabbing the hammer from the man, Mr. Shimazu rescued the woman who was covered in blood. At that time, Mr. Masuhara stood in front of the car of the man to block his attempted escape. He then notified the police and assisted in the man's arrest.

Recommended by the Foundation for Encouragement of Social Contribution

後日、検事に犯行動機らしきものを聞き、政府に景気対策にもっと力を入れてもらわないと、この様な事件がもっと増えるだろうと感じました。

益原 三郎

平成22年3月30日（火）私にとって、生涯忘れることのない1日になりました。

月末近くの銀行、午後3時頃はいつもよりたくさんの人達で混んでいました。

銀行の用事をすませ、車に乗り、エンジンをかけようとしたら、駐車場の同じ列で少し離れた車から大きな叫び声が連続して聞こえてきたので、エンジンをかけるのを止め、車から降りて様子を見に行こうとした時、被害者の隣に車を停めていた島津さんが車に戻って来られ、そのやり取りから、「事件だな」と思い、トラブルの車に行こうとした時、犯人らしき男が私の車の隣の車に急いで乗って車を発進させようとしていました。

「これは、逃げられたらいかん」と思い、犯人の車の前に立ちはだかり、「何しとんじゃー、ナンバー覚えたから、もう逃げられんどー」と、思わず広島弁で犯人に向かって叫び、携帯で110番通報しました。

犯人も観念したのか（私を刑事に見間違えたかも？）エンジンをかけることなく、逮捕に至りました。

県外出身の私は昭和58年から新潟を拠点として生活し、冬の厳しさでの車のトラブルが起こった時、見ず知らずの人に何度も助けて頂いたことを考えると、少し、恩返しのできたかなと思います。

今回の受賞も、被害者の方が死に至らず、徐々に日常生活に戻れていると聞き、受賞を受ける気持ちになりました。



救出現場

平成22年4月3日 新潟日報



現場の駐車場



おお たに てる お
大谷 照男 (52歳／東京都東久留米市)

平成22年3月18日午前7時30分頃、東京都北区のJR山手線の電車内で、父母を探すように激しく泣いている幼児と一緒にいる男を不審に思い、声をかけ田端駅で降車させて駅員を通じて警察に通報した。幼児は東久留米市のスーパーから連れ去られていたことが判明し、幼児は保護され、男の逮捕に協力した。

●推薦者／山下 孝士

3月18日、私はいつも通り西武線で池袋に出て、上野周りで浜松町・モノレールという通勤ルートの電車の中でした。いつものホーム、いつもの号車に乗って池袋ホームを経た時からの出来事です。

山手線の車内に、子供のぐずる声が聞こえてきました。朝7時40分頃の出来事です。電車の中はいつも通り込み合っていて、ほとんどの吊り皮にお客さんがつかまって立っています。子供の声はその乗客の陰から聞こえてきます。きっと早くから起こされてまだ眠いのにお出かけでぐずっているのかなあと思いました。普通ならお母さんがあやしてくれて、少し経てば収まるのですが、今日はなかなか泣きやまないようで、どうしたのかなと、乗客の人波の間から泣き声の方を見ました。

すると、母子連れではなく、初老の男性と小さな子供、ちょうどお爺ちゃんと孫の二人連れに見受けられました。今日はお母さんの具合が悪く、お爺ちゃんが子守り役なのかなあ、慣れない様子で大変そうだなあと見ていました。

やがて二駅ほど通過したでしょうか、子供のぐずる様子は一向に収まらず、ますますその度合を増しているではありませんか。何だか不自然さを感じ、二人の様子に耳をそばだてて聞いていると、子供は「ママー、ママー」と泣き叫んでいます。一方男は「パパもママもいないからね」という内容であやしているのを聞きとることができました。

「パパもママもいない」とは尋常ではありません。やがて子供は電車のイスから滑り降り、電車の床に寝そべって泣き叫んでいます。その横に男がしゃがんであやそうとしています。ますます不自然さを感じながらも、ついに田端駅に停車したとき、そばに歩み寄って二人に声をかけました。

「どうしたんですか？」

Teruo Ohtani (Age 52/Hogashikurume, Tokyo)

On March 18, 2010 at about 7:30 in the morning, while riding on a train of the JR Yamanote Line in Kita-ku, Tokyo, Mr. Otani noticed a young child who was crying loudly and seemed to be looking for his parents. Feeling suspicious of the man accompanying the child, Mr. Otani approached the man and asked him to get off the train at Tabata Station. He then asked the station staff to notify the police. It was later revealed that the child had been abducted from a supermarket in Higashi Kurume City. The child was taken into police protection as Mr. Otani assisted the police in the arrest of the man.

Recommended by Mr. Koji Yamashita

男は、「この子は迷子なんです」と答えました。

「どこで迷子を見つけたんですか？」と聞くと、「池袋です」と答えました。すでに池袋から4駅も過ぎているのに、迷子を連れまわすとは異常です。「なぜすぐに届けなかったんだ、すぐに連れて行こう、お前も一緒に行こう」と左手で子供を抱きかかえると同時に、その男の袖口も掴んで、駅の事務所まで連れて行き、駅員さんに引き渡したのです。その後その男が誘拐犯であるとの知らせに、本当にびっくりしました。

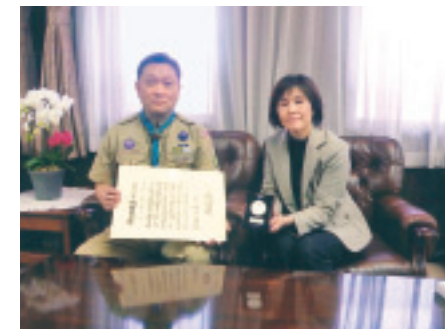
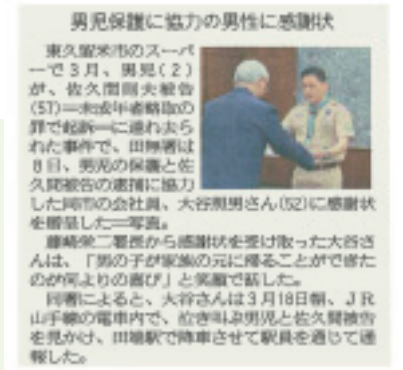
後日、ご家族揃って拙宅までお礼に来られ、ご両親や小学生のお兄ちゃんたちから、丁寧なお礼の言葉を頂きました。とりわけお母さんの心痛はどれほどだっただろうと思われ、お母さんの胸に無事帰ることができたことを、何よりのことと思ったことでした。

また、一連の事件解決にあたっては、永年成人指導者として関わってきた「ボーイスカウトのおしえ」によって役に立てたことも、喜びの一つとなりました。マスコミにも取り上げていただき、多くのスカウト仲間からもお誉めの言葉をいただきました。

今回このような栄誉ある賞を頂くこととなり、今後ともこの栄誉に恥じぬよう精進してまいります。

関係各位の皆様、本当にありがとうございました。

平成21年10月4日 産経新聞



警察署からの感謝状



取材風景



ボーイスカウト活動の様子